

JA全農ウィークリー

2面

和牛全共で全農グループの事業を紹介 パネルを使った説明で生産者に畜産資材もPR (畜産生産部)

6-7面

食料への権利と農業(4) 共同通信アグリラボ所長 石井勇人
個人や家庭の目線で考えたい食料・農業
持続可能性への意識高まり 有機農産物が人気に



MVPに選ばれたサッカーJ2ブラウブリッツ秋田の青木翔大選手へ「あきたこまち」を贈呈(3面)



アサヒ飲料(株)との初のコラボレーション商品「国産ミルク & カルピス」新発売(2面)



全農グループの事業や畜産資材などを紹介した特設ブース(2面)

2 カルピスとニッポンエール
「国産ミルク&カルピス」新発売
(営業開発部・酪農部)

3 ブラウブリッツ秋田選手とスクール生が
稲刈り(秋田県本部)

11月に「第40回全農酪農経営体験
発表会」(酪農部)

4 ブランドヒストリー
徳島県を代表する特産品「なると金時」
関係機関が協力し、ブランド力アップに
向け活動を展開(徳島県本部)

5 JAズームイン(JA鳥取西部・鳥取)



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちら



8 全農直営飲食店舗で
「長野県産りんご三兄弟フェア」を開催
(長野県本部・園芸部・フードマーケット事業部)

「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」
プレゼント(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介
全農ライフサポート山形

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

「第69回山梨県農業まつり」に出展
(山梨県本部)

岐阜県産果物を使ったドライフルーツを
無印良品で販売(岐阜県本部)

あぐラボとスタートアップ企業20社が
農業weekに出展(経営企画部)



News!



和牛全共で全農グループの事業を紹介

パネルを使った説明で生産者に畜産資材もPR

畜産生産部



全農グループの事業や畜産資材などを紹介した特設ブース



畜産資材をパネルで紹介

特設ブースでは、全農グループが取り組む事業や取り扱う畜産資材をパネルで紹介。中でも配合飼料事業に関する展示では、全農グループによる飼料原料の調達から畜産物の流通販売に至るまでのフローについて図や写真を使って説明しました。また、安定的な飼料供給機能を担う全農独自の海外物流ネットワークを訪れた人に伝えました。

全農は10月6～10日、鹿児島県の霧島市と南九州市で開催された第12回全国和牛能力共進会にブースを出展しました。来場した生産者や関係者、一般消費者に和牛生産から食肉販売に至る各分野での全農グループの取り組みを直接アピール。多くの人がブースに訪れました。

その他、全農の研究所が開発した新しい飼料や資材を生産者にパネルを使って説明しました。担当者は「全共は5年に1回の貴重な機会なので、このような場でPRできて光栄です。高校生らこれからの畜産を支える世代にも、全農のことを少しでも知っていただきたい。日本の畜産と一緒に盛り上げていけるような関係性を築き、将来にわたって長く続けられたらうれしい」と話しました。

News!



カルピスとニッポンエール「国産ミルク&カルピス」新発売

アサヒ飲料(株)とコラボ、酪農家を応援

営業開発部・酪農部

全農とアサヒ飲料(株)の初のコラボレーション商品「国産ミルク&カルピス」が、11月1日よりアサヒ飲料から全国で発売されます。

この商品は、新型コロナウイルスの影響による業務用の需要減少などから生じる牛乳の余剰問題に対し、消費拡大を応援したいという思いから発売します。

国産の乳原料から作られている「カルピス」に国産牛乳をブレンドしています。「カルピス」の甘ずっぱさと国産牛乳のコクが混ざり合ったやさしい味わいが特長で、商品名の下に、牛のイラストをあしらうことで牛乳が使われていることを

表現しています。また、上部に「ニッポンエール」のロゴを配置することでアサヒ飲料とともに酪農家を応援していることを伝えていきます。

100年以上受け継いできた乳酸菌と酵母、発酵という自然製法から生まれた「カルピス」と「ニッポンエール」のコラボレーション商品として発売することで、市場の活性化とともに国産牛乳の消費拡大を図ります。



「国産ミルク&カルピス」172.8円(税込み)

※「カルピス」「CALPIS」はアサヒ飲料(株)の登録商標です。



ブラウブリッツ秋田選手とスクール生が稲刈り

収穫したお米はホームゲームで両チームへ贈呈

秋田県本部

笑顔で稲刈りをする普光院選手とスクール生



このプロジェクトは「次世代を担う子どもたちの健全な育成」を目的に実施しており、今年で8年目になります。

秋田県本部はサッカーJ2リーグ「ブラウブリッツ秋田」との共同企画「元氣わくわくキッズプロジェクト」で、春に田植えを行った田んぼの稲刈りを行いました。収穫したお米は、「J-A全農あきた Presentsブラウブリッツ秋田ホームゲーム」で両チームへ贈呈しました。

10月1日に実施した稲刈りには、ブラウブリッツ秋田のスクール生9人と江口直生選手、普光院誠選手が参加し、「あきたこまち」の稲を手で刈り取りました。はじめは慣れない作業に苦

戦していたスクール生も作業を進めるうちにこつをつかみ、元氣に笑顔で稲を刈り取りました。

収穫した「あきたこまち」は10月8日、秋田県本部がマッチスポンサーを務めたJ2リーグ「ブラウブリッツ秋田VSジェフユナイテッド千葉」戦で両チームへ各150kg贈呈しました。また、見事勝利を収めたブラウブリッツ秋田の青木翔大選手にはMVPとして60kgをプレゼントしました。

会場では来場者先着2000人に新米の秋田県産「あきたこまち」とオリジナルマスクをプレゼントしたほか、販売ブースでの県産農畜産物の販売・PR、米俵の重量当てクイズなど多彩なイベントを実施しました。



11月に「第40回全農酪農経営体験発表会」

「全農学生『酪農の夢』コンクール」の表彰式も併催

酪農部

酪農部は11月25日、「第40回全農酪農経営体験発表会」を開催します。

この発表会は全国から選ばれた優秀な酪農経営者に、経営内容や技術を自らの体験を踏まえて発表してもらうものです。今年は日経ホール（東京・大手町）での実現に加え、YouTube Live放送のハイブリット形式で開催します。

第40回発表会では、厳正な審査を通過した北海道の浦部雄一さん、福島県の佐久間哲次さん、群馬県の石原玄明さん、神奈川県福田努さん、香川県の広野豊さん、熊本県の桐原将文さんの6人が、優れた経営・技術を発表します。

今年は節目となる第40回の記念企画として酪農家の方々から酪農の未来にむけたメッセージをいただく予定です。

また併催企画として、酪農の将来を担う学生を対象とした「第16回全農学生『酪農の夢』コンクール」の表彰式を行うと共に、発表会に参加する酪農家と学生との座談会も実施します。

当日の発表や表彰式はYouTube Liveで配信します。参加・閲覧希望の方は左記の二次元コードからお申し込みください。



来場・視聴申し込み
はこちら
締切：11月18日（金）





ブランドヒストリー 12

徳島県を代表する特産品「なると金時」

関係機関が協力し、ブランド力アップに向け活動を展開

きめ細かく美しい外見と上質な甘みを兼ね備えた、徳島県産ブランドサツマイモ「なると金時」。徳島県北東部の温暖で乾燥した瀬戸内式気候の中、水はけが良く通気性の良い砂地畑で大切に育てられています。徳島県のサツマイモ生産量は、全国5位です。

【徳島県本部】

「なると金時」の歴史は古く、主産地である鳴門市の海岸部では、明治前期には265畝の栽培面積が確認されています。明治の初めに、鳴門市里浦出身の西上国蔵が、



砂地畑で生産される「なると金時」



7月下旬から11月にかけての収穫作業

長崎県大村から来た船に荷積みされてきたサツマイモ（源氏系統）の中

から優良な系統を選び出しました。これが「撫養いも」と呼ばれ、関西で好評を得て産地としての名声が上がったといわれています。

鳴門地方のサツマイモは、それ以降、明治から昭和にかけて、塩害で作物ができなかつた低湿地に、製塩業で燃料として使われていた石

炭殻を敷き、その上に周辺の海岸部からの砂を客土としてできた砂地畑で栽培が広がりました。

昭和40年代には鳴門市を中心に近隣の徳島市、松茂町、北島町を含む2市2町で現在の約1000畝の規模となりました。この2市2町の砂地畑で生産されたサツマイモが「なると金時」の名前で、関西をはじめ、関東・中国地方まで広く販売されています。

栽培と今後について

現在の栽培作型は、2月にハウス内で苗を定植し、育苗します。本

ぼでは3月中旬に畝立てマルチ・土壌消毒を行い、4月上旬から6月中旬にかけて挿し苗をします。7月下旬から11月にかけて収穫作業が行われます。9月以降に定温貯蔵したものを、翌年5月末ごろまで出荷します。

2007年度に、鳴門市・徳島



箱詰めした特産「なると金時」

市・板野郡の砂地畑で生産される「高系14号」から選抜育種されたサツマイモを「なると金時」として地域団体商標を取得しました。ブランド品として位置付けることで、他産地との差別化を図り、付加価値を高めるとともに、生産意欲の高揚と品質の維持・向上を図っています。

徳島県のサツマイモは、JA・全農を通して市場流通される割合が高く、青果出荷の比率が高いことが特徴となっています。この特徴を生かし、県・JA・全農・徳島県甘諸消費拡大協議会は、「なると金時」のブランド力アップに向けて活動を展開しています。

今後も引き続き安全・安心な「なると金時」の生産と品質本位の出荷に取り組み、あわせて的確な生産出荷情報の発信、積極的な消費宣伝活動を展開し、販路拡大に努めていきます。

プレゼント 徳島県産「なると金時」の「里むすめ」(5^{kg})を5名様にプレゼントします。

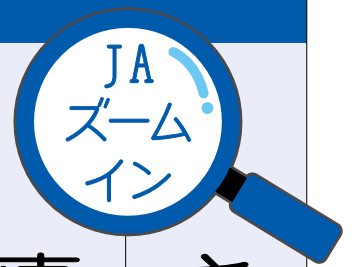


応募方法 件名に「ブランドヒストリープレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、JA全農ウィークリーの感想をご記入の上、メールでご応募ください。

応募先 zz_zk_zennohweekly@zennoh.or.jp

締め切り 2022年11月11日(金)23時59分

※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。
また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。



さまざまなメディアで情報発信

直売所のLINEでJAファン獲得も

JA鳥取西部は鳥取県西部に位置し、米子市、境港市、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町、日吉津村の2市6町1村で構成されています。日本海に面し

た砂丘地から中国地方の秀峰「大山」などの中山間地があり、起伏に富んだ地形や気候など風土を生かしたさまざまな農畜産業が盛んです。

**ターゲットに合わせ
多様な広報誌を発行**
広報活動では、さまざまなメディアを活用した情報発信に取り組んでいます。

JA直売所「ふれあい村アスパル」のLINEでレシピ動画も配信



ターゲットに合わせた広報誌「そよかぜ」「そよかぜぷらす」「そよかぜマガジン」

JA発足から20年以上発行している組合員向け広報誌「そよかぜ」を中心に、一般地域住民向けのタブロイド判「そよかぜぷらす」、若者や主婦向けの冊子「そよかぜマガジン」を、それぞれターゲットに合わせた内容やデザインで作成しています。

紙からネットへ クロスメディア戦略

紙面での情報発信と合わせて、将来を見据えたSNSによる情報発信の強化にも取り組んでいます。JAのホームページや直売所のオンラインショップ、YouTubeチャンネルなど内容を充実させ、それを拡散力の高いツイッターで発信。紙メディアにも二次元コードを積極的に入れ、紙からネットに誘導するクロスメディアの広報活動を行っています。



JA鳥取西部
HPはこちら



JA鳥取西部の
YouTube
はこちら

イベントの案内、特売チラシなどの情報をタイムリーに発信することで、オンラインショップへの誘導にもつながっています。また、登録者にプレゼントやクーポンなどが抽選で当たる企画や、JAのYouTubeと連動した動画レシピ紹介なども行い、より身近で便利な直売所としてさらなるJAファンの獲得も期待しています。10月には登録者数700人を超え、23年には登録者1000人を目指しています。

JA鳥取西部 (鳥取県)



概要

2022年1月31日現在

正組合員数	1万4110人
准組合員数	1万2128人
職員数	497人
販売品取扱高	107億2千万円
購買品取扱高	62億8千万円
貯金残高	2152億6千万円
長期共済保有高	5724億8千万円
主な農産物	水稻、白ネギ、 ブロッコリー、トマト、ニンジン、花き類、 梨、柿、和牛

個人や家庭の目線で考えたい食料・農業

持続可能性への意識高まり 有機農産物が人気に

共同通信アグリラボ所長 石井勇人



石井勇人（いしい・はやと） 岐阜県出身。東大文学部卒、1981年に社団法人共同通信社入社、編集委員室次長などを経て2019年9月から株式会社共同通信社取締役（22年6月まで）兼アグリラボ所長。15年から19年に「農政ジャーナリストの会」会長。

現地事例や識者の見解をもとに、「食料への権利と農業」には何が必要かを考えるシリーズ。第4回は共同通信アグリラボ所長の石井勇人さんと、個人や家庭の目線で食料・農業を考えます。

名古屋の繁華街で成長した 有機農産物の朝市村

早朝の開店と同時に、野菜めがけてダッシュ——こんな「争奪戦」が毎週繰り広げられる市場があります。有機農産物に特化した「オアシス21 オーガニックファーマーズ朝市村」（名古屋市中区）です。「売り切れ御免」のため、開店前から40～50人が入り口に並びます。会場は

繁華街の栄の中心部。地下鉄で来場する人も多く、キャリーバッグを持参する人も目立ちます。

愛知、岐阜、長野、静岡、三重の5県からメンバー60戸のうち、タイミンダよく農産物がそろう農家12～25戸が参加。直接対面販売し、栽培方法などを消費者に説明することが出店条件です。生産者と消費者の交流の場になっています。もう一つの特長は、「有機での新

規就農相談コーナー」が併設されていることです。これまで朝市村の農家で研修を受けた40人が新規就農しました。

朝市村が誕生したのは2004年。出店農家10戸、来客1000人程度で隔週開催でしたが、現在は毎週土曜の午前8時半から11時半までの定期開催で約500～600人が訪れます。「こんなに大きく育つとは思わなかった」と村長級の吉野隆子オーガニックファーマーズ名古屋代表。

農業と食料のあり方を問う 「食料主権」「食料への権利」

有機農産物の人気の背景には、食の



オアシス21 オーガニックファーマーズ朝市（名古屋市中区）の開店同時にダッシュする来場者（2022年10月1日、筆者撮影）



関根佳恵（せきね・かえ） 神奈川県出身。2011年京大大学院経済学研究科博士後期課程修了。博士（経済学）。16年愛知学院大学経済学部准教授。18年に国連食糧農業機関（FAO）客員研究員。19年に設立した家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン常務理事。22年より現職。

インタビュー

工業的農業から生態系を維持発展するシステムへ

関根佳恵愛知学院大学教授に聞く

安全・安心だけでなく、持続可能性に対する意識の高まりがあります。ただ、日本の動きは欧米などと比べると大きく遅れています。良い食材を手に入れたい消費者の思いが「権利」として認識されていないからです。

国際的には、1996年の世界食

料サミットで、「すべての人が、安全で栄養のある食料にアクセスする権利」として「食料への権利」が再確認されました。このサミットでは、国際農民組織のラ・ビア・カンペジーナが、さらに踏み込んで「食料主権」を提唱しています。農業者、とりわけ家族経

営の小農業者らが、農業と食料のあり方を自分たちで決定したいという願いです。

一方、日本政府は、食料安全保障を明示的に定義していません。食料・農業・農村基本法が「食料の安定供給の確保」（2条）について触れているだけで

す。「食料への権利」や「食料主権」が「アクセス（接近）」という消費者目線を起点にしているのに対して、日本政府の姿勢は「供給」という上から目線で、個人や家庭の食生活への目配りが不十分なのです。

規模拡大や企業の参入、貿易自由化や規制緩和で効率的な農業経営を目指す政府の農業政策をどう評価しますか。

国際的な潮流として、持続可能な開発目標（SDGs）、小規模農業・家族農業への支援、生態系と調和したアグロエコロジー（農業生態学・生

態農業）の促進、伝統的な技術の再評価が注目されています。2021年9月の国連食料システムサミットでは、多国籍企業が食料安全保障を実現するために、精密農業、データ収集、ゲノム編集など遺伝子工学の重要性を強調したのに対し、市民団体や科学者らが反対声明を出し、多国籍企業主導の工業的スマート農業を批判しました。

――**飢餓を解消するためには、効率的な農業で増産することが重要なのでは。**

アグロエコロジーが非効率的だというのは誤解です。生産性を「労働生産性」と「土地生産性」だけで評価する傾向がありますが、「資源投入」と「社

会性」を尺度に加えて評価すると、工業的な農業の生産性が高いとは言えません。アグロエコロジーは、温室効果ガスの排出を抑制し、雇用創出、地域の生活条件の改善の面でも優れています。資源を浪費する工業的農業から、生態系を維持発展するシステムへの転換こそ、持続可能な農と食のあり方です。また、国際的な実証実験からは高いことが分かっています。

――**日本でアグロエコロジーは普及するのでしょうか。**

有機農産物の直売と新規就農相談の接点となっている名古屋市のオーガニックファーマーズ朝市村や、小規模農家の育成に取り組んでいる愛知県

豊田市とJAあいち豊田の「農ライフ創生センター」、石川県羽咋市とJAはくいしの「のと里山農業塾」、学校給食の食材の有機化を推進する千葉県いすみ市など、各地で地に足が着いた活動が続々と広がっています。フランスのオランド政権は2014年に「農業、食料及び森林の将来のための法律」を制定し、アグロエコロジーの推進を打ち出しています。現在のマクロン政権もこの方針を踏襲し、農業省を「農業・食料主権省」に改め、食や農のあり方を当事者が自分で決める「権利」として位置づける姿勢を明確にしました。日本でも「食料への権利」や「食料主権」が幅広く認知されることを願っています。

「くだもの王国長野」の秋の味覚を食べ比べ 全農直営飲食店舗で「長野県産りんご三兄弟フェア」を開催

全農は10月28日～11月8日の間、東京都と福岡県内の直営飲食店舗(3店舗)で「長野県産りんご三兄弟フェア」を開催します。

【長野県本部・園芸部・フードマーケット事業部】

長野県は、昼夜の寒暖差や日照時間に恵まれ、全国でもトップクラスの生産量を誇るりんごをはじめ、さまざまな果物が四季を通じて栽培される、まさに果物の宝庫です。

今回のフェアでは、濃い赤色が美しく甘みと酸味のバランスが良い「秋映」^{あきばえ}、果汁が多く酸味が少ない甘さが特徴の「シナノスイート」、鮮やかな黄色でパリッとした食感の「シナノゴールド」の3品種のりんごをぜいたくに使用したパフェやスムージーなどの限定メニューを提供します。

長野県が誇る「りんご三兄弟」を使用した自慢のスイーツを



左から「秋映」「シナノゴールド」「シナノスイート」の長野県産「りんご三兄弟」
※「りんご三兄弟」はJA全農長野の登録商標です。

お楽しみください。

また、長野県産りんごは全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン「僕らはおいしい応援団」」でも購入できます。

【メニュー提供概要】

期間

2022年10月28日(金)～11月8日(火)
※11月3～5日は店頭でりんごを販売します(数量限定)。

実施店舗

みのりカフェ 三越銀座店
みのり食堂 三越銀座店
みのりカフェ アミュプラザ博多店

ショップは
こちら



店舗詳細は
こちら



全農 ZEN-NOH

COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

毎週土曜日13時～ TOKYO FM系列38局ネット

11月5日放送では、「(特別栽培米)コウノトリ育むお米 5^{kg}」を3名様にプレゼントします。

「コウノトリ育むお米」は、カエルやドジョウなど、田んぼに住む生きものが育つ環境づくりに取り組み、生態系や自然に配慮した農法で栽培・収穫された「コシヒカリ」です。できる限り自然のままを追求した安全・安心の田んぼで、生産者が愛情を注いだ「人と自然にやさしいお米」、コウノトリと人、すべての生きものにやさしいお米です。ぜひご賞味ください。

また、JAタウンギフトカード5000円分を1名様にプレゼントします。

【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは11月5日の放送で
ランキング1位の曲が発表されるま
です。

こちらの商品はJAタウンからご購入いただけます。

JAタウン
ショップ名

あつめて、兵庫。



全農ライフサポート山形

山形名物「いも煮」の季節がやってきました。山形ではしょうゆ味をベースにサトイモや牛肉などを鍋で煮込み、家族や友人たちと河原に集っていも煮を楽しみます。

そんな山形の秋の風物詩をご自宅でも手軽に満喫できるのが、こちらの「いも煮セット」。作り方のレシピも付けるので調理も安心。お好みでゴボウや豆腐などの具材を追加したり、余ってしまったときはカレー粉を入れたり、うどんを煮たりとさまざまなバリエーションで楽しむことができます。

※写真はイメージです。鍋・しゃもじは付きません。



山形いも煮セット(3～4人分)……4980円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com